弘法さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
Kouhei@oh-Kouhei.org

皆さん、こんにちは。**日本仏教と聖徳太子の生涯**がテーマの今年のかわら版。今月は**聖徳太子の四天王信仰**についてです。

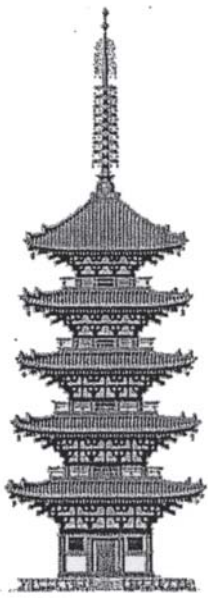
★ 用明天皇

五八五年、**敏達天皇**は**蘇我馬子**が私的に仏法を信仰することを許し、倭国に初めて**正法（しょうぼう）**が誕生しました。

同年八月、敏達天皇崩御を受けて即位したのは異母弟の**橘豊日皇子（たちばなのとよひのみこ）**。つまり、**厩戸皇子（聖徳太子）**の父である**用明天皇**です。

用明天皇は二年後に病に倒れ、快癒祈願のために仏教への信心を深め、帰依を願います。

臣下の私的信仰と違い、神祇の祭司長である天皇の仏教帰依は国の一大事。**欽明天皇**、敏達天皇、用明天皇の三代、約半世紀にわたる難問です。



用明天皇は臣下を病床に集め、「朕は**三宝（仏法僧）**に帰依したい。皆で是非を論ずべし」と命じます。

★ 大連・物部氏と大臣・蘇我氏

排仏派の**大連（おおむらじ）**物部守屋は帰依に猛反対。

崇仏派の**大臣（おおおみ）蘇我馬子**は「天皇の御心（みこころ）に異を唱えてよいはずがない」と反対論を制し、九州から**豊国法師（とよくにのほうし）**を招き、快癒祈願をさせました。

大連は軍事、大臣は政治を補佐する立場。物部守屋と蘇我馬子の対立が決定的となる中、**五八七年四月**、用明天皇が崩御。

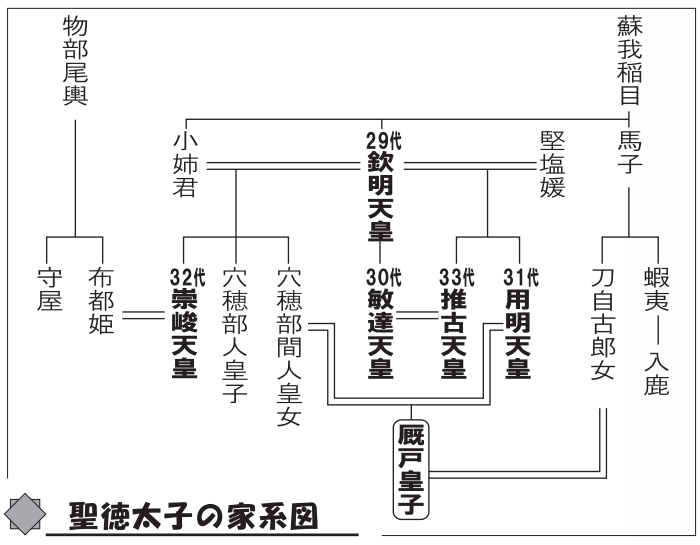
物部守屋は次期天皇候補者である**穴穂部人皇子（あなほべのひとのみこ）**を擁して河内に布陣。

蘇我馬子は用明天皇の息子である厩戸皇子を擁して大和に布陣。

同年六月、敏達天皇の皇后であり、用明天皇の妹であった**炊屋姫（かしきやひめ）**＝後の**推古天皇**）が、物部守屋、穴稲部人皇子の討伐を蘇我馬子に命じます。

しかし、物部氏は軍事が本職。蘇我氏は劣勢です。

若干十四歳の厩戸皇子は、自ら彫った**四天王像**を髪に括りつけ、「勝利の暁には必ず護世のために寺を建立します」と誓願して参戦しました。



聖徳太子の家系図

★ 難波四天王寺

同年八月、いよいよ決戦。物部守屋が「これは物部の守護、**布都大明神（ふつのだいみょうじん）**の矢」と唱えて矢を放つと厩戸皇子に命中。しかし、鎧に守られて皇子は無事でした。

続いて、厩戸皇子が**迹見赤檮（とみのいちい）**に命じて「これはこれ、**四天王**の矢」と唱えて矢を射させると、物部守屋の胸に命中。**秦造河勝（はたのみやつこかわかつ）**が守屋の首を斬り落として勝負は決しました。

四天王は仏教の守護神。東方を守る**持国天（じこくてん）**、西方を守る**広目天（こうもくてん）**、北方を守る**多聞天（たもんてん）**、南方を守る**増長天（ぞうちょうてん）**です。

厩戸皇子の深い仏教信仰の証（あかし）ですが、日本書記の編纂者による後世の創話という説もあります。

五九三年、厩戸皇子は誓願どおりに**難波四天王寺**を建立。

四天王寺縁起によれば、厩戸皇子は**伽藍**とともに、修行の場である**敬田院**、病人に薬を施す**施薬院**、病人を収容する**療病院**、身寄りのない年寄りのための**悲田院**を併設。その後の徳政の一端が垣間見えます。

★ 摂政皇太子

用明天皇を継いだのは**崇峻天皇**。しかし、わずか五年で暗殺され、**五九三年**、**推古天皇**が即位。

来月は厩戸皇子が**摂政皇太子（せっしょうひつぎのみこ）**に任じられる経緯をお伝えします。乞ご期待。